

新年あけましておめでとうございます。

2020 年から始まった新型コロナウイルス感染症は 3 年近くなるにも関わらずいまだ収束に至らず、デルタ株、オミクロン株などいろいろ形を変え収まる気配が見えません。私の勤めているやすらぎの家の利用者の平均年齢は 87 歳、しかも基礎疾患のある方が多いため感染すれば重症化する可能性が高く、さらにワクチンを接種していても感染するため、利用時には本人のみならず家族の体調までお聞きしたり、面会に際しては窓越しに携帯電話を使い、しかも 15 分と時間制限まで設けています。すでに従来通りの面会を許可している施設もあるようですがまだ踏み切れていません。その対策も功を奏し入所者に感染者は出ておらずクラスターに至ることもなく平穏に過ごしていただいています。

今年も NPO 法人「天かける」の主たる事業は地域連携に関連する事ですが、広島県の尾三医療圏（尾道市、三原市、世羅郡で構成される二次医療圏）の新型コロナウイルス感染症対策ウェブ会議の事務局としてお手伝いしてきました。パンデミックは二度と起きてほしくはないのですが今後に備えこれまでの会議録を纏め地域としてコロナにどう対応してきたかについての資料をつくりたいと考えています。また学研ナーシングから依頼され「ICT 利活用で変わる地域包括ケア」をビデオ収録する予定です。ICT に関わる国の施策を見ていると医療と介護における尾道市医師会方式がいかに先見の明を持っていたかにいまさらながら驚いています。

また 1 月 26 日にはカナダ・ケベック州の「ル・ドゥボワール」紙から日本の「高齢化社会と介護」、特に日本の在宅介護に関心があり、高齢者の医療・介護「地域包括ケアシステム」の先駆けである「尾道方式」についての取材依頼があり引き受けています。

ところで 2023 年は十二支の「卯」、十干の「みずのと」が重なる 40/60 の年。卯は冒や茂の意を持ち草木が茂り地面を覆うようになった状態を表し、春の訪れを感じると言う意味だそうです。みずのとは雨や霧、静かで温かい大地を潤す恵みの水を表し、十干の最後の癸は生命の終わりを意味するとともに、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味しているのだそうです。卯はウサギ、おとなしく穏やかなイメージがあるため家内安全、家族愛を象徴する動物、安全の象徴としての意味を持っているそうです。またその跳躍力から飛躍、向上も持ち合わせているようです。

長い新型コロナウイルス感染症の冬が終わり春を待ち望むとともに皆様の飛躍とご多幸を祈念いたします。